

# 千馬山城跡(秩父郡皆野町)

築城年代: 戦国時代、築城者: 藤田重利

前方が山に千馬山城跡が展開する



説明坂がある



別名、龍ヶ谷城跡/埼玉県選定重要遺跡

埼玉県選定重要遺跡

龍ヶ谷城跡

選定日 昭和五十一年十月一日  
所在地 皆野町大字三沢二九八〇他

小田原北条氏の北武蔵での拠点である鉢形城(寄居町)の支城として龍ヶ谷城は築城された。そして、天神山城(長瀬町)・高松城(皆野町)・日尾城(小鹿野町)などとともに甲斐武田氏の侵入にそなえ、また鉢形本城の背後の固めとして機能していました。なかでも龍ヶ谷城は秩父郡北部を一望でき、秩父地方を掌握しようとする北条氏にとって重要な城のひとつでした。龍ヶ谷城は、鉢形城主・北条氏邦の家臣として秩父地方を掌握していた用土新左衛門の築城と伝えられており、同じく用土氏築城と言われる花園城(寄居町)・天神山城と城の構造がとても似ています。

城跡には十九条もの空堀りが残っており、傾斜面に縦に掘られた堀(堅堀)や堅堀と横堀を錯させたものも見られます。また大規模な堀切や、一部には当時の石垣も残っており、門跡や物見櫓跡と思われる平場なども確認することができ、秩父地域を代表する山城として昭和五十一年に埼玉県選定重要遺跡に選定されています。現在、山頂には用土新左衛門を祀ると伝えられる石宮があります。

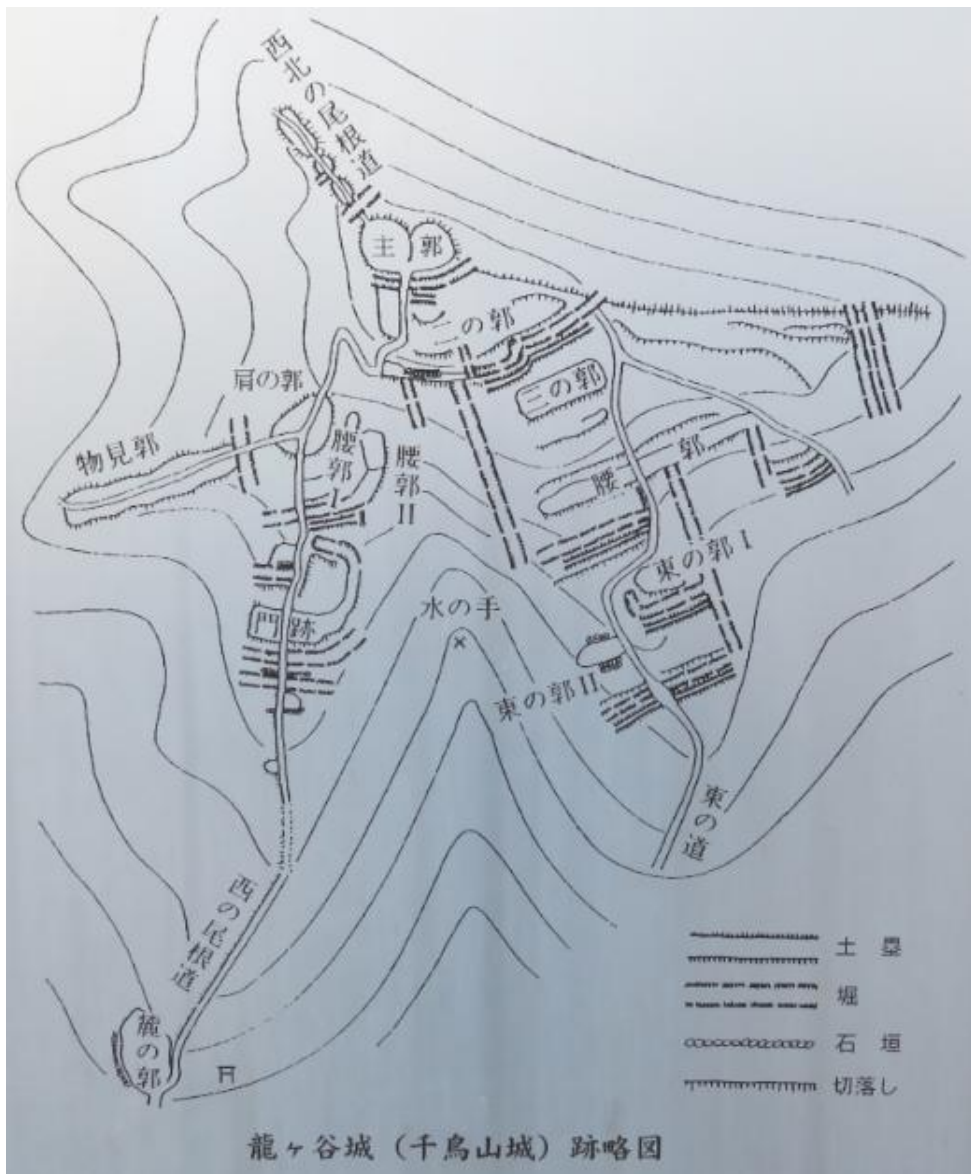
秩父地方を掌握していた北条氏と甲信地域を本拠地とする武田氏はしばしば争いを繰り返していましたが、秩父地域の鉾山資源に着目した武田信玄による秩父谷侵攻の戦禍が及んできました。水鏡十二年(一五六九)頃、武田氏による秩父侵攻は最も激しさを増し、同年十月には信玄自らが秩父に在陣し龍ヶ谷城付近でも戦が繰り返されたと伝えられています。この付近には「戦場」、「向戦場」という地名が残っていますが、これは武田勢の龍ヶ谷城攻めの際、戦場となったことの名残といえるでしょう。



龍ヶ谷城(千鳥山城)跡略図

天正十八年(一五九〇)時の間白豊臣秀吉は小田原攻めを行い、小田原城と同時に鉢形城にも攻め込み落城させました。北条氏は龍ヶ谷城に三上外記を配し豊臣勢に抵抗しましたが、本城である鉢形城とともに落城し、以後廢城となりました。

平成十年三月  
皆野町教育委員会



ここを進んで行く



この左手の山上に千馬山城跡が展開する



少し進むと左手の民家の脇に登城口がある/道路脇に標示板がある



これがそれ





ここから入って行く



左手に御堂があり、その前にはベンチが置いてある





ここを登って行く



前方にまた、御堂がある





ここを右手に廻り込んで行く







さあ、ここからいよいよ千馬山城跡を目指す/この道は下記縄張図の「西の尾根道」





西の尾根道→肩の郭→物見郭→腰郭 I、II→主郭→西北の尾根道→二の郭→三の郭→北東の二重堀→東の郭の順で見てみよう

「西の尾根道」を登って行く



こんな感じで進む



すると、まず一寸した堀切状のところがある



左手を見たところ



右手を見たところ



更に進む





ここは二番目の堀切か



そこを通過して振り返ったところ



更に進む



ここは少し窪んだ平場となっている



そこを通過して振り返ったところ/この辺りは「門跡」とされる場所か



更に進むと前方に堀切が見えてくる



堀底と土橋を見たところ/左手に石積み遺構が見られる



正面が石積み遺構





アップで見たところ



右手から左手に堀底と土橋を見たところ



その先は豎堀となつて下っている



堀切を越えて振り返って見たところ



更に進む



また、堀切がある/土橋を見たところ



左手の豎堀を見たところ



右手を見たところ/堀切の先は平場となっている





こんな感じ/前方は「腰郭Ⅱ」のエリアのようだ



これは堀切を越えて振り返って見たところ/右手は豎堀、左手は「腰郭Ⅱ」のエリアに続いている



その左手を見たところ



右手の豎堀を覗いたところ



さて、ここを登ると平場となっている



ここが「肩の郭」/東側から西方向に見たところ



南東側から北西方向に見たところ



南西方向を見ると尾根が延びている





ここにも堀切と土橋がある



左手を見たところ/豎堀となつて下っている



堀切を越える



振り返って土橋を見たところ



左手を見たところ



さて、この平場は「物見郭」



ここが南西先端部



その先は急峻な崖となっている





これは振り返って「物見郭」を見たところ



そこから南方向を見ると正面に最初に説明坂が立っていた場所が見える



さて、これは「肩の郭」の東側下にある「腰郭Ⅰ」



前方まで続いている/左上が「肩の郭」



これは「腰郭Ⅰ」の東側下にある「腰郭Ⅱ」



さて、「肩の郭」から更に北西方向に登って行こう



この先を右手に折れて登る



こんな感じ





斜面にはこんな岩盤が露出



今度は左手に折れて登る



少し開けてきた



振り返って見たところ/この左手に豎堀があった



こんな具合



その豎堀を正面から見たところ



さて、更に登ると大きなマウンドが見えてきた/このマウンドが「主郭」/右手は「二の郭」



左手に行き先表示板が立っている/「主郭」の下は堀になっている







みよがさわ  
茗荷沢コース  
あらかし  
強石橋バス停

スポーツ公園  
ハギノソリ峠  
あらかし  
赤城神社・親鼻駅

←→

これは右手のその横堀とその手前の土塁を見たところ



こんな感じ/左手が「主郭」



これは前方に行って振り返って横堀を見たところ



さて、前方の「主郭」へ登ってみよう



これは振り返って見たところ



ここが「主郭」/説明坂が立っている/その左下に崩れた石祠がある



左手を見ると一段高くなっている/小祠が見える





振り返って見たところ/「主郭」への虎口



説明坂



埼玉県選定重要遺跡



# 龍ヶ谷城跡

皆野町教育委員会

これが崩れた石祠



これは左手の一段上の小祠



アップで見たところ



一段高くなった所から下の「主郭」を見たところ/南東方向を見たところ



これは「主郭」から南東下の「二の郭」を見たところ



さて、これは「主郭」から続く「西北の尾根道」を見たところ





堀切がある



堀切の前方を見たところ



堀底を見たところ



堀切を越えて振り返って見たところ



尾根の前方は平場となっている



更に先端はここで急峻な崖となっている/地面にトラロープが這っている



トラロープの先はやはり急峻な崖となっている



振り返って「主郭」方向を見たところ





さて、これは「二の郭」/北側から南方向に見たところ



「二の郭」は平坦ではなく、南東方向に下がり気味になっている



これはその南東方向下にある横堀



横堀は北東方向に延びている/左手は「二の郭」/右手の下には「三の郭」があるようだ



横堀は折れを伴いながら、北方向に延びている



前方にマウンドが見える



こんな感じ/左手は「二の郭」、右手は北東に続く尾根

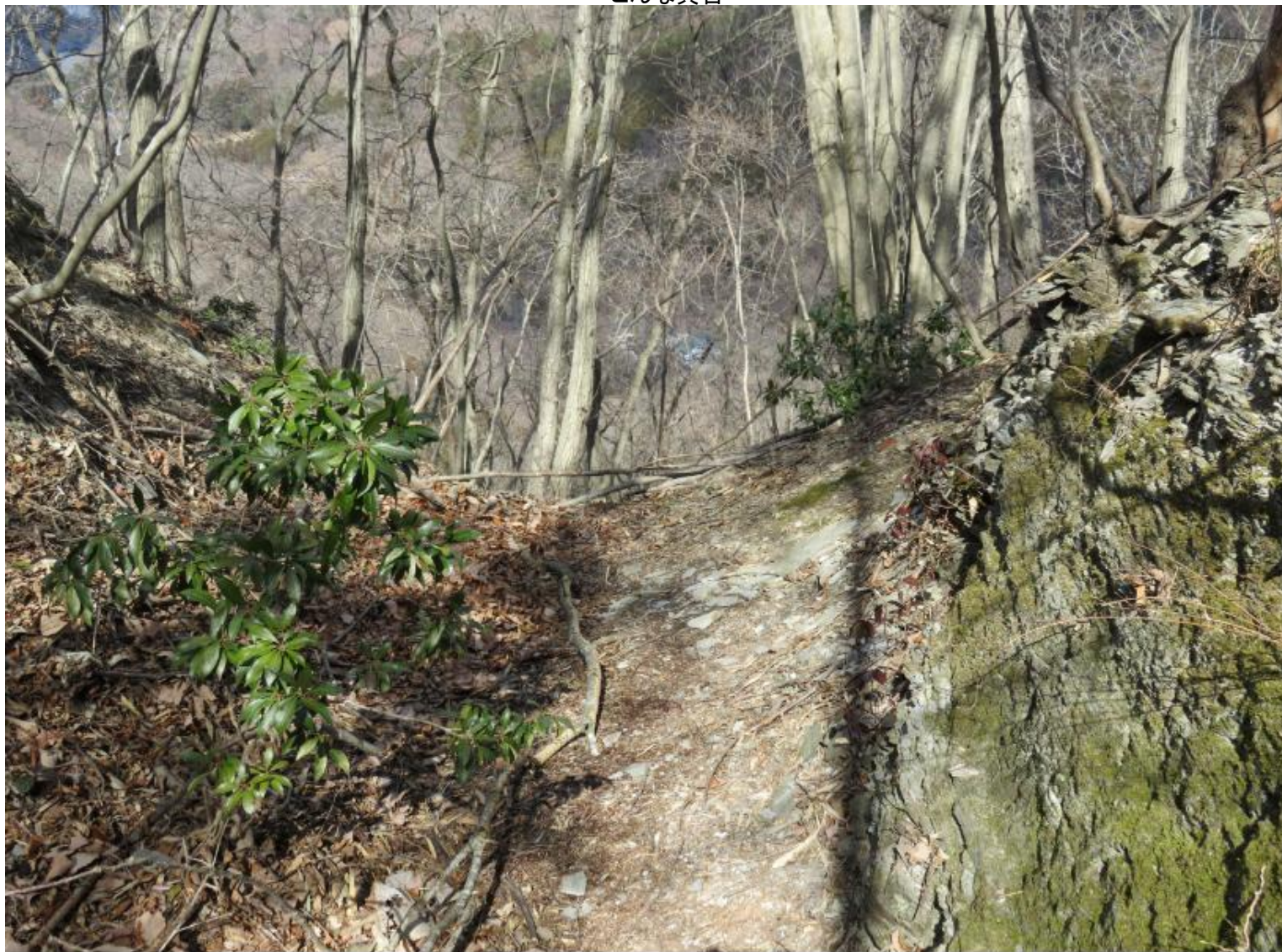


横堀は北東に続く尾根の堀切となっている





こんな具合



その先は豎堀となって下っている



これはその方向を見上げたところ



振り返って堀切を見たところ



右手を見上げたところ/この上は「二の郭」



左手を見上げたところ/こちらは北東に続く尾根



この尾根の先にある北東の二重堀へ進んでみよう



北東方向に進む





この辺りも一寸した平場になっている/この先に堀切がある



二重堀切となっている



一つ目の堀切を右手の豎堀から見たところ/左手が今来た方向



前方の堀底を見たところ



その先は急峻な崖となっている



そこで振り返って見たところ



この先は豎堀として下っている



これは一つ目の堀切を越えて振り返って見たところ





これは二つ目の堀切を見たところ



一つ目の堀切を右手から左手に見たところ



その先は急峻な崖となっている



そこで振り返って土橋を見たところ



この先はこのように豎堀として下っている



これは二つ目の堀切を越えて振り返って見たところ



さて、更にその先を見ると少し下がっていく



この先にも若干の平場があるように見えるが、城域としてはここまでのようだ





さて、「二の郭」南東下の横堀へ戻り、「三の郭」及び「東の郭」を見てみよう/これは横堀の南東下にある平場で、これは「三の郭」の一部であろうか/平場がひな壇のようになっている



豎堀となっているのだろうか



こんな感じで藪化していて判然としない



豎堀らしき部分を見上げたところ



これは南西寄りにある竪堀と思われる部分



その先を見たところ



下の方に平場があるようだ/「東の郭」のエリアであろうか/時間切れで下山することとした



南側から千馬山城跡の一角を見たところ/正面手前の辺りが「麓の郭」か





参考ホームページ

<http://jyokakuzukan.la.coocan.jp/002saitama/030senbayama/senbayama.html>

<http://yogokun.my.coocan.jp/saitama/minanomati.htm>

<http://ameblo.jp/napo-jou/entry-11722831838.html>

[https://saitamano.blogspot.jp/2014/11/blog-post\\_93.html#!/2014/11/blog-post\\_93.html](https://saitamano.blogspot.jp/2014/11/blog-post_93.html#!/2014/11/blog-post_93.html)

[http://53922401.at.webry.info/201409/article\\_30.html](http://53922401.at.webry.info/201409/article_30.html)

<http://www.geocities.jp/tsukayan0112/joukan-saitama/senbayama-jou-minanomati/senbayama-jou-minanomati.html>

<http://www.geocities.jp/tsukayan0112/joukan-saitama/senbayama-jou-minanomati/senbayama-jou-minanomati.html>

<http://www.water.sannet.ne.jp/u-takuo/senbayamazyo.htm>

<http://4619.web.fc2.com/shiro83.html>

<http://www.hb.pei.jp/shiro/musashi/senbayama-jyo/>

<http://hya34.sakura.ne.jp/titibu/sennbayamazyou/sennbayamazyou.html>

<http://www.geocities.jp/sisin9monryu/saitama.nagatoro.html>

<http://www5.plala.or.jp/tutinosiro/tutinosirohenosyoudou/saitamanosiro.html>

